

ローマのバロック様式を巡る (3) ナヴォーナ広場からミネルヴァ広場へ

藤原 道夫

ナヴォーナ広場は、観光スポットというより市民の憩いの場のよう。何時行っても、市場が立つ時以外は、ゆったり散策できる。

広場はローマ時代の競技場跡を利用して造成され、円を引き延ばしたような形をとっている。広い池の中央に「四大河の噴水」とよばれる大きな噴水があり、巨人に擬人化された四大河の周りに多くの動物が水と戯れている。彫像群はベルニーニの代表作。噴水辺りで赤や青の鮮やかな服を着た子供たちが遊んでいるのを見かけた。噴水の真ん中にオベリスクが高く聳え、すぐ後ろにポッコミーニ設計による教会が建ち、ローマらしい風景を作っている。池の両端にも立派な噴水があり、見て回るとたちまち時間が経ってしまう。

広場東側の路地を行くとすぐ殺風景な小広場に出る。一角にサン・ルイージ・デイ・フランチェージ教会が建つ。中にバロック様式の絵画を切り拓いたカラヴァッジョの三折祭壇画で飾られた礼拝堂がある。左側面の「マタイの召命」(1600頃)を初めて見た時はその強烈な画法に驚いた。「私と一緒に来なさい」と言うイエスの頭上から発する光がマタイや仲間の顔と派手な衣装とを明るく照らし(誰がマタイか諸説あり)、人々の表情がリアルに描かれている。光と闇の対比が強調された描写法だ。この画法は後世の画家に大きな影響を与えた。

ここで先生が10人余の小学生に絵について説明している場面に二度居合わせた。イタリア文化省は固有の文化を若い世代に伝えることを奨励していることが伺い知れる。

次に近くのサンティエーヴォ・アッラ・サピエンツァ教会を覗く。教会の中庭両側に二重列柱が湾曲して正面に集中し、ドーム上の塔は六角形で螺旋状に捻じれたユニークな構造をとっている。ここにポッコミーニの設計能力が存分に発揮されているように感じた。

出るとすぐにオベリスクの立つロトンダ広場越しにパンテオンの圧倒的な偉容が見えてくる。見物は後回しにし、斜め後ろのミネルヴァ広場へ。中央の台座に象(知恵の象徴)の彫刻が置かれ、背中に小さなオベリスクが立っている。これは時の法王の在位を記念し、ベルニーニと弟子たちによって造成された。脇にローマで唯一ゴシック様式の内部構造をとるサンタ・マリア・ソプラ・ミネルヴァ教会が建つ。古代建築とゴシック様式の教会とに挟まれ、象は所在無さそう。